

MCP × GA4 スタートガイド 完全版

モジュール1 セットアップ 完全手順書

GA4とClaudeをつなぐ9ステップ — 画面キャプチャ付き・2026年最新仕様対応

9

ステップ構成
(所要60～90分)

29

画面キャプチャ
(迷わず進める)

全対応

2026年4月のGA4権限
付与
仕様変更に対応

第1版 (v1.0)

HAPPY ANALYTICS / ga4.guide

2026年7月発行 ※ MCP・Claude Desktop の仕様変更時は無償アップデートで対応します

9ステップの地図 — いま自分がどこにいるかを常に把握する

セットアップは全部で9ステップです。前半（STEP1～6）はGoogle側の作業、後半（STEP7～9）は自分のPC側の作業に分かれます。**途中で中断しても大丈夫な設計**ですが、STEP4でダウンロードするJSONファイルだけは保管場所を決めてから進んでください。

ステップ	作業場所	やること	目安	つまずいたら (モジュール 2)
STEP1 プロジェクト作成	Google Cloud	Claude連携専用の「箱」を作る	5分	エラー1-1
STEP2 APIの有効化	Google Cloud	GA4のデータ取得APIをONにする	3分	エラー1-2 / 1-3
STEP3 サービスアカウント作成	Google Cloud	Claude用の「機械のアカウント」を作る	5分	エラー2-1
STEP4 認証キーの取得	Google Cloud	JSONキーファイルをダウンロードして保管	5分	エラー2-2 / 2-3
STEP5 GA4に権限付与	OAuth Playground	機械のアカウントにGA4の閲覧を許可する ※2026年4月からAPI経由が標準	10分	エラー3-1～3-4
STEP6 プロパティID取得	GA4	9桁のプロパティIDをメモする	2分	エラー4-1
STEP7 Node.js導入	自分のPC	MCPサーバーの実行環境を入れる	10分	エラー5-1
STEP8 Claude Desktop導入	自分のPC	アプリのインストールとログイン	10分	エラー5-2
STEP9 接続設定	Claude Desktop	設定ファイルに3つの値を書き込み、動作確認	15分	エラー6-1～8-2

事前に用意するもの

- Googleアカウント（GA4を閲覧できるもの）と、**GA4プロパティの管理者権限**（自分になければSTEP5で管理者に協力を依頼します）
- アプリをインストールできるPC（会社PCの場合は管理者権限またはIT部門への申請）
- Claudeのアカウント（未作成ならSTEP8で作れます）

安心して進めるための前提知識

この連携は**読み取り専用**です。ClaudeがGA4の設定を書き換えたり、データを消したりすることはできません。また、集計はあなたのPC上のMCPサーバー経由で行われ、GA4の画面にログインし直す必要もありません。詳しいセキュリティのFAQはモジュール5にまとめています。

STEP 1

Googleクラウドプロジェクトの作成

Google Cloud

最初に、この連携専用の「プロジェクト」という箱をGoogle Cloud上に作ります。無料で作成でき、この用途では課金は基本的に発生しません。

1. console.cloud.google.com にアクセスし、Googleアカウントでログインします（初回は利用規約への同意画面が出ます）
2. 画面左上のGoogle Cloudロゴの右側にあるボックスをクリックし、「新しいプロジェクト」を選択します



図1-1 | ログ右のプロジェクト選択ボックス→「新しいプロジェクト」

1. 「プロジェクト名」に分かりやすい名前を入力して「作成」を押します（例：claude-ga4-connection。後から変更できないため、用途が分かる名前を推奨）



図1-2 | プロジェクト名を入力して作成

1. 作成が終わったら、作成したプロジェクト名を選択して切り替えます（ここを忘れると次のSTEPでAPIが見つかりません）



図1-3 | 作成したプロジェクトを選択した状態にする

チェック 画面左上に、いま作成したプロジェクト名が表示されていればSTEP1完了です。

つまづいたら 「新しいプロジェクト」が押せない・権限エラーが出る → 会社の組織アカウント特有の制限です。モジュール2のエラー1-1へ。

STEP 2**APIの有効化**

Google Cloud

GA4のデータを外部から取得するための「Google Analytics Data API」をONにします。

1. 左側のナビゲーションメニュー（≡）から「APIとサービス」>「ライブラリ」を選択します

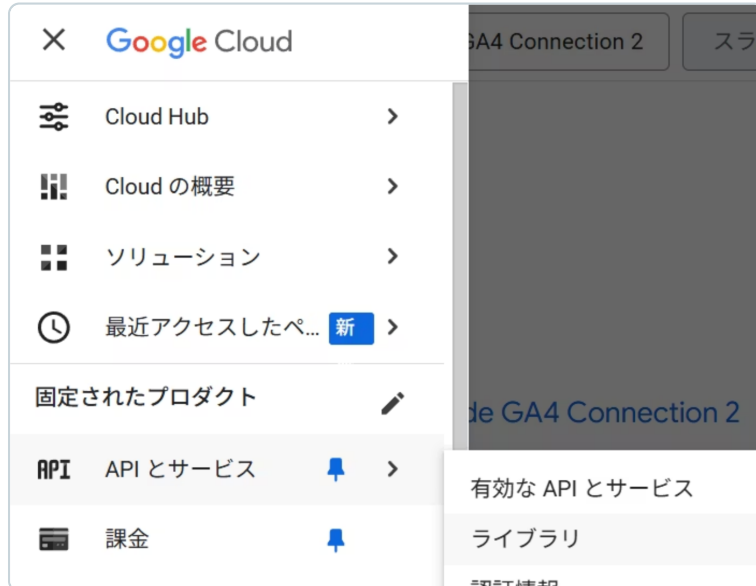


図2-1 | APIとサービス → ライブラリ

1. 検索ボックスに「Google Analytics Data API」と入力して検索します

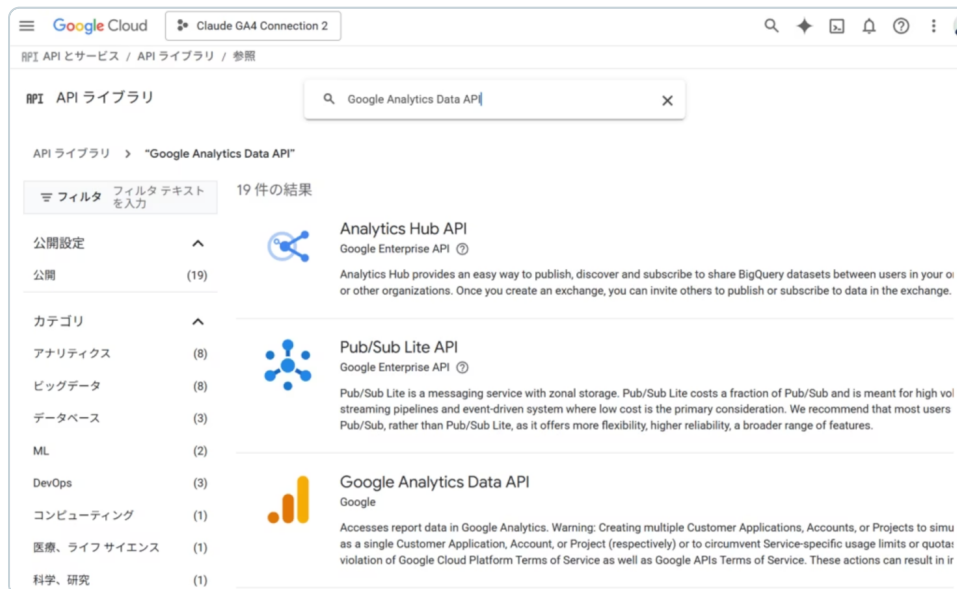


図2-2 | APIライブラリで検索

1. 検索結果から「Google Analytics Data API」を選択し、「有効にする」を押します



図2-3 | 「有効にする」をクリック

チェック ボタンが「APIが有効です」等の表示に変わればSTEP2完了です。

つまづいたら 検索しても出てこない → プロジェクトの選び忘れが最多です（**エラー1-2**）。「有効にする」が押せない → **エラー1-3**へ。

STEP 3

サービスアカウントの作成

Google Cloud

Claudeの代わりにGA4へアクセスする「機械のアカウント」を作ります。人間のGoogleアカウントとは別物で、メールアドレスの形をした認証用IDです。

1. 左上ナビゲーションメニューから「IAMと管理」>「サービスアカウント」を選択します

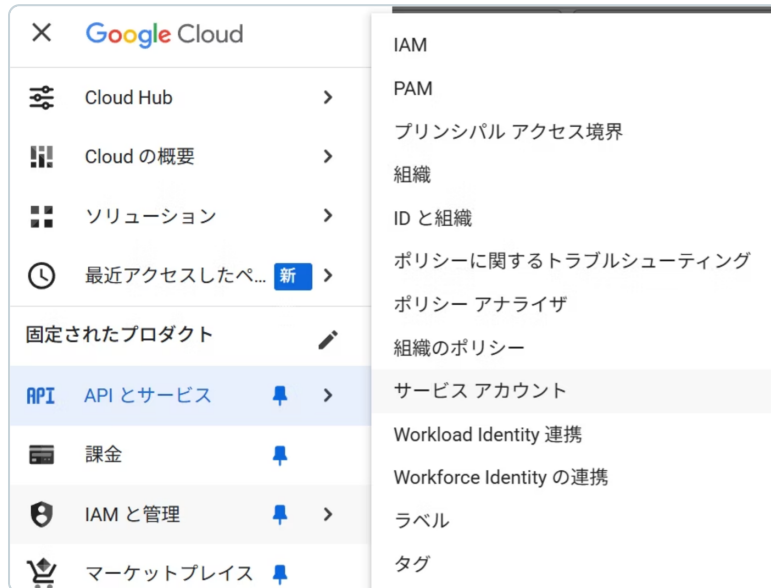


図3-1 | IAMと管理 → サービスアカウント

1. 「+サービスアカウントを作成」を選択します



図3-2 | +サービスアカウントを作成

1. サービスアカウント名を入力して「作成して続行」を押します（例：claude-analytics-access）。続く「ロールの付与」「ユーザーへのアクセス許可」の2画面は**何も設定せずスキップ**し、「完了」を押します

← サービス アカウントの作成

1 サービス アカウントの作成

サービス アカウント名
Claude Analytics Access 2
このサービス アカウントの表示名

サービス アカウント ID *
claude-analytics-access-2 × ↺
メールアドレス: claude-analytics-access-2@claude-ga4-connection-2.iam.gserviceaccount.com 📧

サービス アカウントの説明
このサービス アカウントで行うことを説明します

作成して続行

2 権限 (省略可)

3 アクセス権を持つプリンシパル (省略可)

完了 キャンセル

図3-3 | 名前を入力 → STEP2/3はスキップして完了

チェック 一覧に「～@～.iam.gserviceaccount.com」形式のアカウントが表示されればSTEP3完了です。このメールアドレスはSTEP5で使います。

つまづいたら 作成ボタンがない・権限エラー → エラー2-1へ。

いま作った機械のアカウントの「鍵」にあたるJSONファイルをダウンロードします。この章で一番大事なのはファイルの保管です。

1. 一覧から、作成したサービスアカウント名（claude-analytics-access〜）をクリックします

プロジェクト「Claude GA4 Connection 2」のサービス アカウント

サービス アカウントは Google Cloud サービス ID（Compute Engine VM、App Engine アプリ、Google 以外で実行されているシステムなどで実行されているコード）を表します。 [サービス アカウントの詳細をご覧ください。](#)

組織のポリシーを使用してサービス アカウントを保護できます。IAM ロールの自動付与、鍵の作成やアップロード、サービス アカウントの完全な作成など、リスクのあるサービス アカウント機能をブロックすることが可能です。 [サービス アカウントの組織のポリシーの詳細をご覧ください。](#)

≡ フィルタ プロパティ名または値を入力

☐	メール	ステータス	名前 ↑	説明	キー ID	キーの作成日	OAuth 2 クライアント ID ②	操作
☐	claude-analytics-access-2@claude-ga4-connection-2.iam.gserviceaccount.com	有効	Claude Analytics Access 2		キーがありません		102557628128235644690	

図4-1 | サービスアカウント名を選択

1. 上部メニューから「鍵」タブを選び、「鍵を追加」>「新しい鍵を作成」を選択します

← Claude Analytics Access 2

詳細 権限 **鍵** 指標 ログ アクセス権を持つプリンシパル

鍵

⚠ サービス アカウント キーは、不正使用されるとセキュリティ上のリスクになる可能性があります。Workload Identity 連携を使用することをおすすめします。Google Cloud でサービス ください。

📌 Google は公開リポジトリで検出されたサービス アカウント キーを自動的に無効にします。この動作をカスタマイズできます。 [詳細](#)

新しい鍵ペアを追加するか、既存の鍵ペアから公開鍵証明書をアップロードしてください。

[組織のポリシー](#)を使用して、サービス アカウント キーの作成をブロックします。
[サービス アカウント用の組織のポリシーの設定の詳細](#)

キーを追加 ▾

- 新しい鍵を作成
- 既存の鍵をアップロード

キー	作成日	有効期限
----	-----	------

図4-2 | 鍵タブ → 鍵を追加 → 新しい鍵を作成

1. キーのタイプは「JSON」を選んで「作成」を押します

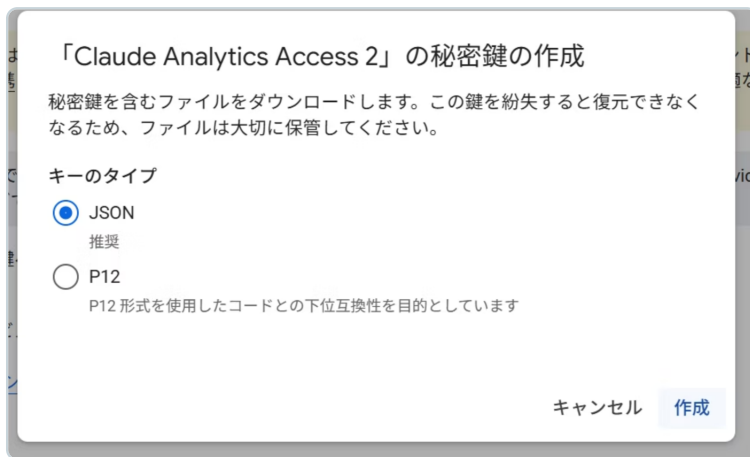


図4-3 | JSON形式を選択

1. JSONファイルが自動でダウンロードされます

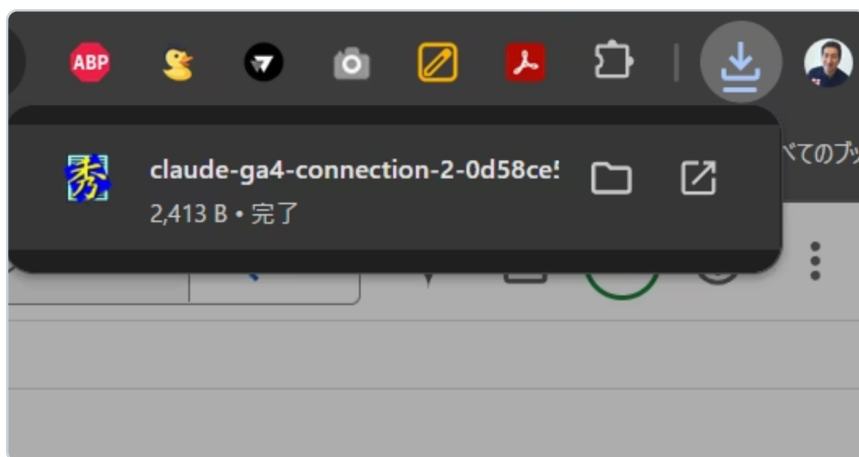


図4-4 | キーファイルがダウンロードされる

1. ダウンロードフォルダから、**分かりやすい場所に移動して保管**します（例：ドキュメント内に「GA4-MCP-Credentials」フォルダを作成）。STEP9で中身を使います

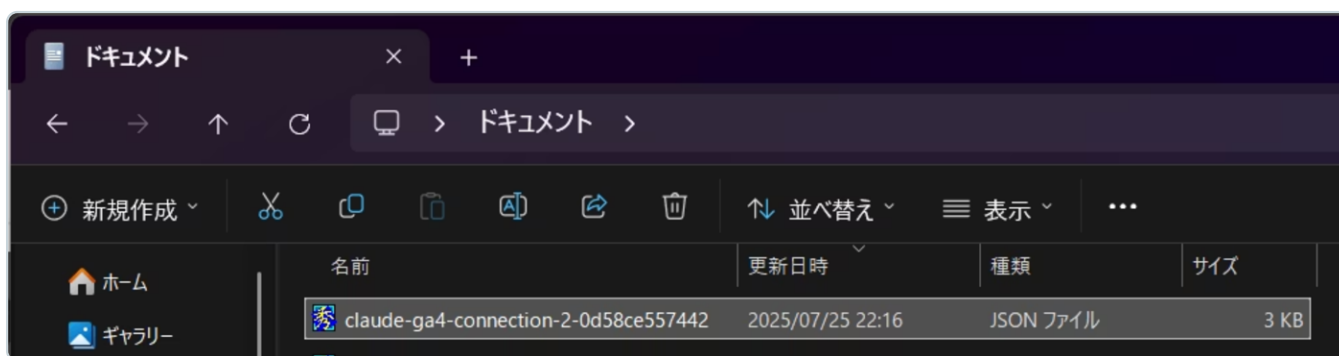


図4-5 | 専用フォルダに移動しておく

重要 このJSONファイルは**GA4データへのアクセス権そのもの**です。メール・チャットでの送信、共有フォルダへの保存は避けてください。紛失した場合は再発行できます（古い鍵は削除しておきましょう）。

つまづいたら ダウンロードされない → **エラー2-2**。保存場所が分からなくなった → **エラー2-3**へ。

2026年4月下旬以降、GA4の管理画面からサービスアカウントを直接追加することはできなくなりました（「このメールアドレスはGoogleアカウントと一致しません」と表示されます）。本書では現在の標準手順であるAPI経由の登録を最初からご案内します。難しそうに見えますが、実際はコピー5回で終わります。

この手順に必要な権限 GA4プロパティの管理者（または編集者）権限を持つGoogleアカウントで作業します。自分に権限がない場合は、この見開きを管理者にそのまま渡して代行を依頼してください（→権限の確認方法はモジュール2のエラー3-1）。

1. <https://developers.google.com/oauthplayground/> を開き、左側の入力欄（Input your own scopes）に次のスコープを入力して「**Authorize APIs**」をクリックします：
<https://www.googleapis.com/auth/analytics.manage.users>
2. GA4の管理者権限を持つGoogleアカウントで認可し、「**Exchange authorization code for tokens**」を実行してアクセストークンを取得します
3. HTTPメソッドを「**POST**」に変更し、Request URI に次を入力します（**{プロパティID}** はSTEP6で取得する9桁の数値。先にSTEP6を見て取得しても構いません）：
<https://analyticsadmin.googleapis.com/v1alpha/properties/{プロパティID}/accessBindings>
4. 「**Enter Request Body**」を押し、次のJSONを入力します（メールアドレスはSTEP3で作ったサービスアカウントのものに置き換え）：

```
{
  "user": "xxx@xxx.iam.gserviceaccount.com",
  "roles": ["predefinedRoles/analyst"]
}
```

1. 「**Send the request**」をクリックし、レスポンスが **HTTP/1.1 200 OK** なら成功です

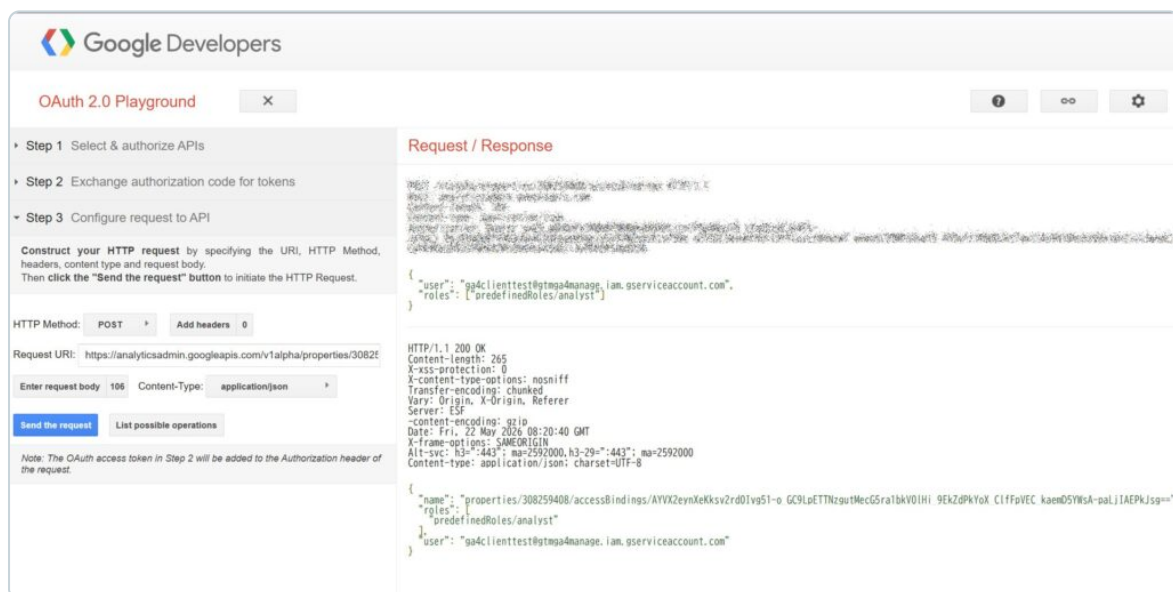


図5-1 | OAuth 2.0 Playgroundでの操作イメージ

チェック GA4の「管理」→「プロパティのアクセス管理」に、サービスアカウントが「アナリスト」として表示されていればSTEP5完了です（以後の役割変更は画面から可能です）。

2つの注意

- URIは必ず **v1alpha** を使ってください（v1betaにはaccessBindingsがなく**404**になります）
- 作業後は Playground の「サードパーティのアプリとサービス」からリフレッシュトークンのアクセスを削除しておく及安全です

つまづいたら 404 → プロパティIDまたはv1beta（**エラー3-4**）。403 → 認可したアカウントの権限不足（**エラー3-1**）。付与後もアクセスできない → **エラー3-3**へ。

STEP 6**プロパティIDの取得**

GA4

最短のステップですが、**本シリーズで最も間違いが多い箇所**でもあります。取得するのは「プロパティID」であって「測定ID」ではありません。

1. GA4の「管理」→「プロパティ」列の「**プロパティの詳細**」を開きます
2. 画面右上に表示される「**プロパティID**」（9桁の数値）をメモします



図6-1 | プロパティの詳細 → 右上のプロパティID

- ✗ G-ABC123XYZ （測定ID — サイトに貼るタグ用。これではありません）
- ✗ UA-12345678-1 （旧ユニバーサルアナリティクスのID）
- 123456789 （9桁の数値のみ — これがプロパティID）

チェック

9桁の数値をメモできたらSTEP6完了。Google側の作業はここまでです。ここからは自分のPCでの作業に移ります。

STEP 7**Node.jsのインストール**

自分のPC

MCPサーバーを動かすための実行環境です。既に入っている方はチェックだけ実施して次へ進んでください。

1. nodejs.org にアクセスし、メニューから「**ダウンロード**」を選択します



図7-1 | nodejs.org のダウンロードページ

1. 自分のOSを選び、バージョンは「LTS」と付いた最新版を選択して、ページ下部のインストーラーをダウンロードします

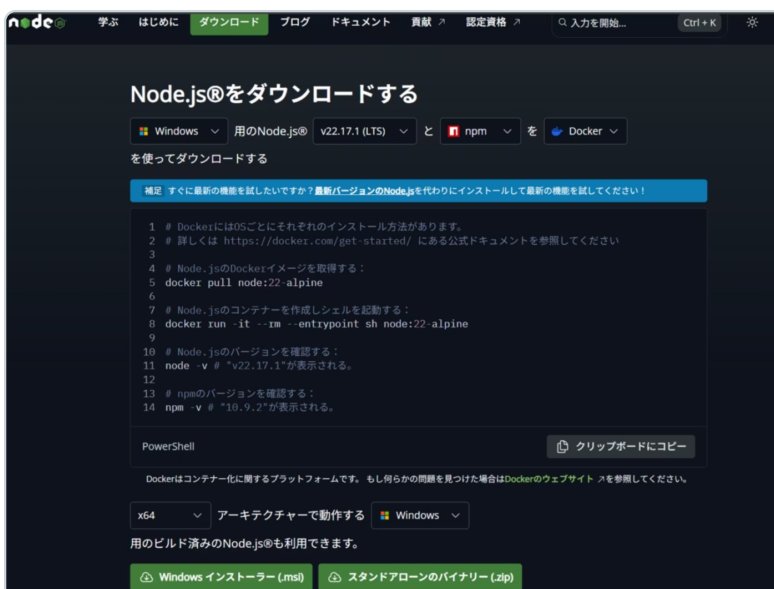


図7-2 | OSを選択し、LTS版のインストーラーを取得

1. ダウンロードしたファイルを実行し、**何も変更せず**そのままインストールを進めます（**Mac** は途中で管理者パスワードの入力があります）

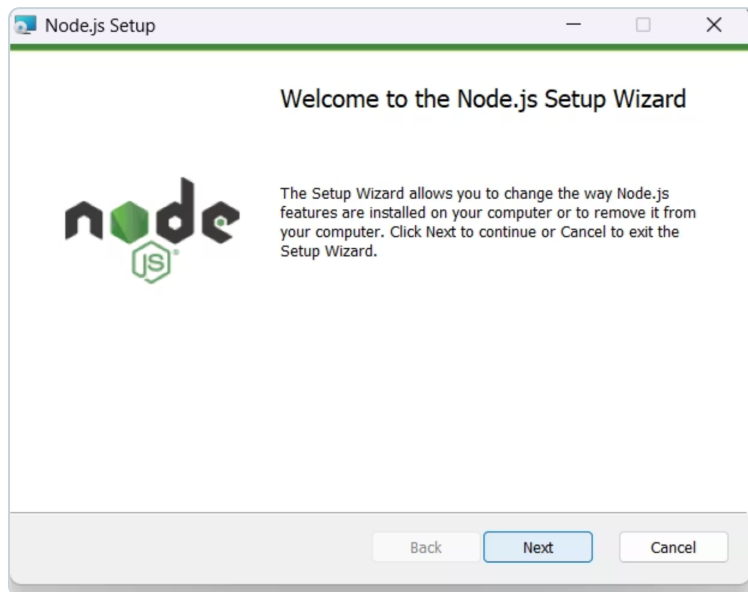


図7-3 | インストーラーは既定のまま進めてOK

チェック **Windows** コマンドプロンプト／**Mac** ターミナルで `node --version` を実行し、`v22.x.x` のようにバージョンが表示されればSTEP7完了です。

つまずいたら インストーラーが実行できない・会社PCで制限されている → **エラー5-1**へ（IT部門への申請文面例もあります）。

STEP 8

Claude Desktopのインストール

自分のPC

1. claude.ai/download からClaude Desktopをダウンロードし、インストールします
2. Claudeのアカウントを持っていない場合は、先にアカウントを作成してからログインします



図8-1 | Claude Desktopのダウンロードページ

チェック

Claude Desktopが起動してチャット画面が表示されればSTEP8完了です。

つまづいたら

起動しない・アプリケーションエラー → セキュリティソフトのブロックが最多です。エラー5-2へ（インストール自体が失敗を繰り返す場合の上級対処も同項に）。

STEP 9

Claude Desktopの接続設定

Claude Desktop

最後の仕上げです。設定ファイルに3つの値（メールアドレス・秘密鍵・プロパティID）を書き込みます。ここが本手順書の山場なので、1つ置き換えるごとに確認しながら進めてください。

9-1 | 設定ファイルを開く

1. Claude Desktopの「設定」を開きます（[Windows](#) 左上のハンバーガーメニュー（≡） → 「ファイル」 → 「設定」 / [Mac](#) メニューバーの「Claude」 → 「設定」）
2. 「開発者」メニューを選び、「設定を編集」をクリックします



図9-1 | 設定画面を開く

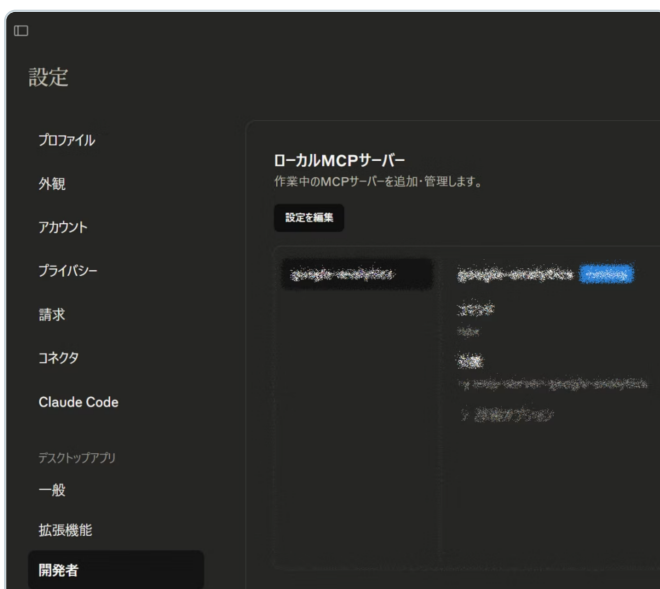


図9-2 | 開発者 → 設定を編集

1. フォルダが開くので、「**claude_desktop_config.json**」をテキストエディタで開きます（メモ帳でも可。VSCodeがあればベター）

Service Worker	2025/07/25 9:39	ファイル フォルダー	
Session Storage	2025/07/25 22:29	ファイル フォルダー	
Shared Dictionary	2025/07/25 9:39	ファイル フォルダー	
WebStorage	2025/07/25 9:39	ファイル フォルダー	
claude_desktop_config	2025/07/25 9:43	JSON ファイル	3 KB
config	2025/07/25 22:33	JSON ファイル	1 KB
DIPS	2025/07/25 22:29	ファイル	36 KB

図9-3 | claude_desktop_config.json をエディタで開く

9-2 | 中身を書き換える（A→Dの順で）

A) まず、ファイルの中身を以下に丸ごと差し替えます：

```
{
  "mcpServers": {
    "google-analytics": {
      "command": "npx",
      "args": ["-y", "mcp-server-google-analytics"],
      "env": {
        "GOOGLE_CLIENT_EMAIL": "your-service-account@project.iam.gserviceaccount.com",
        "GOOGLE_PRIVATE_KEY": "-----BEGIN PRIVATE KEY-----\nYOUR_PRIVATE_KEY_HERE\n-----END PRIVATE KEY-----",
        "GA_PROPERTY_ID": "123456789"
      }
    }
  }
}
```

B) `GOOGLE_CLIENT_EMAIL` の値を、STEP4のJSONファイル内の `client_email` と差し替えます（JSONファイルをメモ帳で開き、ダブルクォートの内側だけをコピー）：

```
BEFORE "your-service-account@project.iam.gserviceaccount.com"
AFTER  "xxxxxxxxxxx@xx.iam.gserviceaccount.com" ← あなたの値
```

C) `GOOGLE_PRIVATE_KEY` の値を、JSONファイル内の `private_key` と差し替えます。**最重要ポイント：値の中の `\n` はそのまま残し、実際の改行にしないこと**（全体が1行のままであること）：

```
BEFORE "-----BEGIN PRIVATE KEY-----\nYOUR_PRIVATE_KEY_HERE\n-----END PRIVATE KEY-----"
AFTER  "-----BEGIN PRIVATE KEY-----\nMIIEvQIBADANBgkqhkiG9（中略）hY5DNXthV\nEZNwc1+\n+1mDnMuwlmJlullw=\n-----END PRIVATE KEY-----\n"
```

D) `GA_PROPERTY_ID` の値を、STEP6でメモした9桁のプロパティIDと差し替えて、ファイルを**保存**します。

安全確認 置き換えのたびに <https://jsonlint.com/> に貼り付けて「Validate JSON」を押すと、構文ミスをおの場で発見できます。カンマの過不足・シングルクォート・全角文字が3大ミスです（→エラー6-2）。

9-3 | 完全終了 → 再起動 → 動作確認

1. Claude Desktopを**完全終了**します。**Windows** ウィンドウを閉じるだけでは終了しません。Ctrl+Shift+Escでタスクマネージャーを開き、「Claude」をすべて「タスクの終了」／**Mac** Cmd+Qで終了（メニューバーに残っていればアイコンからQuit）

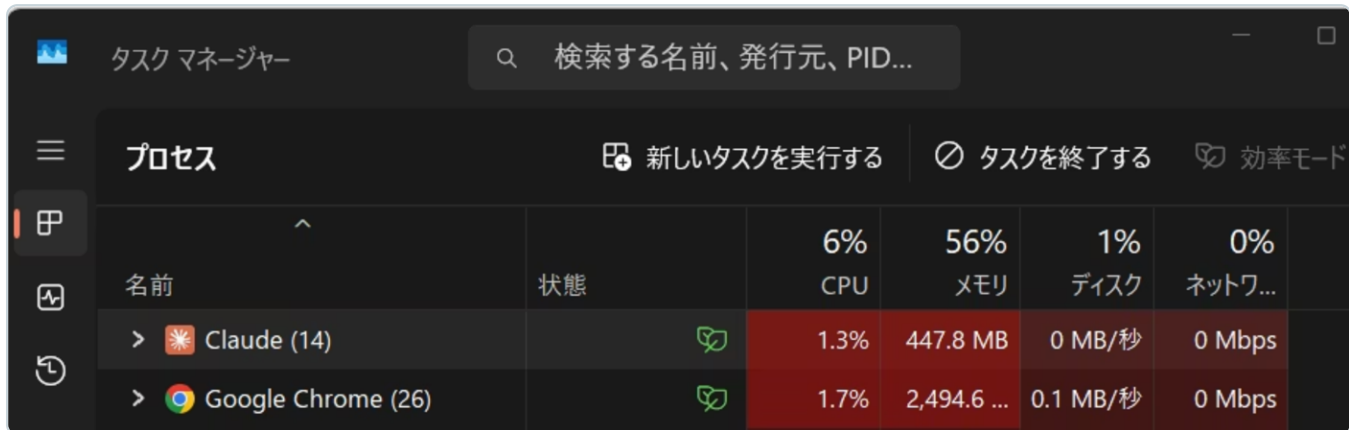


図9-4 | タスクマネージャーでClaudeが残っていないか確認

1. Claude Desktopを再起動し、チャット入力欄下の「+」→「コネクタ」に `google-analytics` が追加されているか確認します（「設定」→「開発者」で「running」表示でも確認できます）

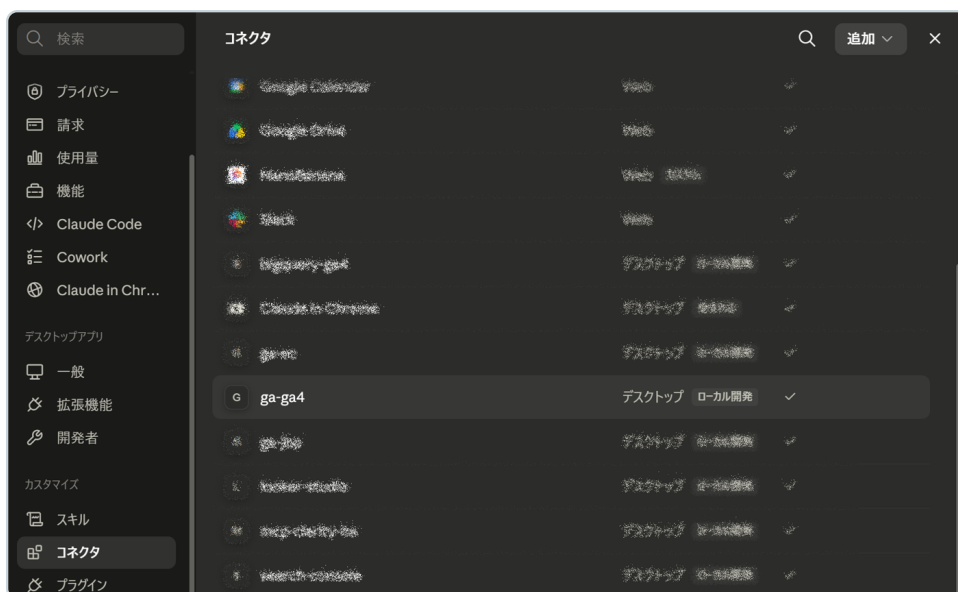


図9-5 | コネクタに google-analytics が表示されていれば成功

1. **推奨設定**：コネクタをクリックし、ツールのうち「RunReport」以外をOFFにします。数値のズレが発生しにくくなり、動作も安定します

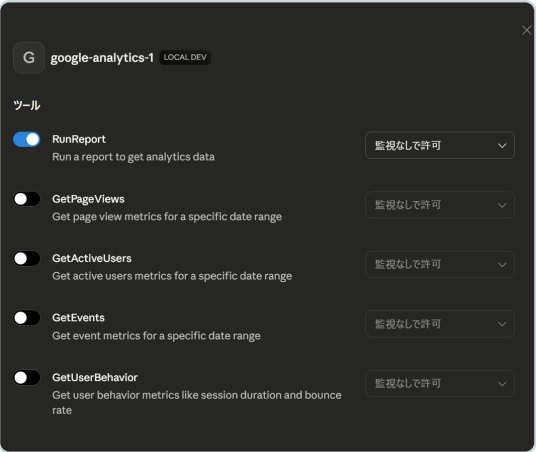


図9-6 | RunReport以外のツールをOFFにする（推奨）

1. 新規チャットを開き、次の一文を送信します：「**接続したGA4のプロパティ名を教えてください**」。以後の分析でも、プロンプトの最初に「**接続したGA4の**」と付けると意図が正確に伝わります

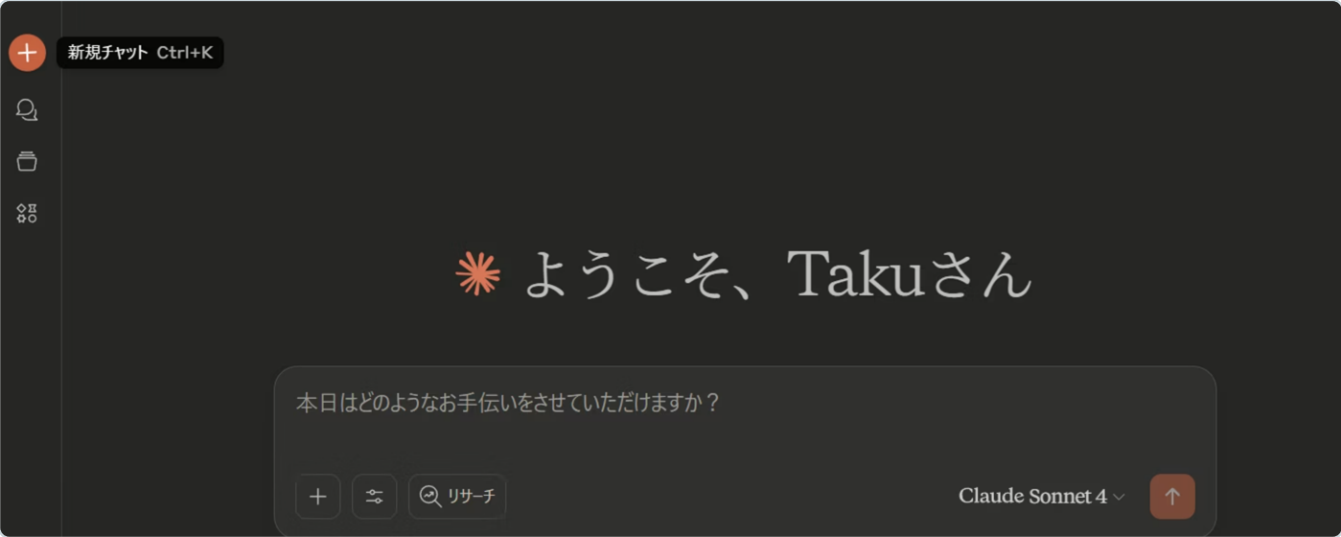


図9-7 | 動作確認のプロンプトを送信

セットアップ完了！ プロパティ名が返ってきたら全工程完了です。おめでとうございます。次は**モジュール3「はじめての分析プロンプト20」の7日間プログラム**へ進んでください。特典の「セットアップ完了チェックリスト」に日付を入れて記念にどうぞ。

つまずいたら コネクタが表示されない → **エラー6-4**。設定を直しても変わらない → **エラー7-1**。エラー文が返る → モジュール2巻頭の**総合診断チャート**で一発で分岐できます。

更新履歴

版の記録

版	発行日	主な内容
v1.0	2026年7月	

初版発行。STEP5は2026年4月下旬のGA4権限付与仕様変更（API経由の登録）に標準対応。STEP9はClaude Desktop現行UI（設定→開発者→設定を編集／コネクタ確認画面）の実機キャプチャを収録。

MCP・Claude Desktop・GA4側の仕様変更を確認した際は、購入者の皆さまに無償の更新版を配布します。本書の記載と実際の画面が異なる場合は、お手元の版が最新かをまずご確認ください。

本書は「MCP×GA4 スタートガイド 完全版」のモジュール1です。エラー対処はモジュール2（診断チャート）、導入後の分析はモジュール3（プロンプト20本）、前提共有ファイルはモジュール4（CLAUDE.mdテンプレート）をご覧ください。MCP・Claude Desktop・GA4の仕様変更時は購入者向けの無償アップデートで対応します。

© HAPPY ANALYTICS / ga4.guide